

いちのせきから ストッブ温暖化

eco 第6号

発行

一関地球温暖化対策地域協議会(IEL)

平成21年9月15日



地産地消のトップランナー 「道の駅かわさき」を訪ねて

充実した加工品コーナー

駅長さんに聞く

地球温暖化防止の観点から今見直されている地産地消、そして旬産旬消。それらを支える道の駅。今回は、地元一関市川崎町にある道の駅かわさきの駅長さんにお話を伺ってきました。

平成15年にオープン以来、毎年右肩上がりて前年を割ったことがない売り上げは、県内トップクラスの年間約4億2千万円。これを支える組織は組合員157名、ほかに賛助会員など合わせて280名ほどから成り立っており、運営は協同組合法人で、他からの援助を受けず、独立採算制をとっています。

生産者への資金支援

旧両磐地域を中心に搬入した沢山の種類の商品を扱っています。目標は、1ヶ所でなんでもそろうスーパーで、扱う種類を多くしたいとのこと。国産のパプリカ、アイスプラントなど新たな種類の野菜にも積極的に挑戦し、そのために今無い新しい商品の生産にチャレンジするための補助金制度を作って生産者を支援していま

す。初めて生で食べた評判のアイスプラントは、肉厚のレタスを食べているようなシャキシャキとした食感にほんのりとした塩味でした。また、常に品切れがないよう、午後になると駅長さんみずから、朝に駅まで持ってこられない農家を回って野菜などを集めています。午後2時頃までに再度補充し、午後5時までは半分以上埋めるようにしています。また、売れ筋と見込まれる農産物は新たに地元で生産するように指導しているそうです。

昔なつかしい味

野菜、果物、花卉などはもちろんですが、加工品にも力を入れています。50代の男性客を念頭に「昔食べたなつかしいおふくろの味」をコンセプトとして、地元のおかあさんたちの作った加工品の売り上げは年間およそ1億4千万円。無添加にこだわっています。また併設の「食事処ドンと亭」は、地元の食材の使用割合などの厳しい審査を経て「いわて地産地消一ツ星レストラン」に県内道の駅では最初に認定されました。

産地間交流のイベント

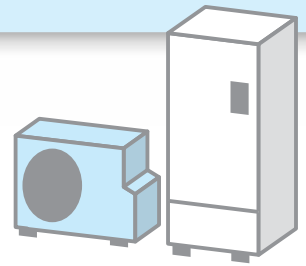
広告は年約20回程度、そこで行われるイベントは気仙沼の魚介類など、近くの産地間交流をベースに、旬のものを、わざわざ遠くまで行かなくてもここ川崎に来れば買えるように、との思いで企画しているそうです。ちなみに次は9月中～下旬、ちょうどこの広報がみなさんの手元に届く頃、さんま祭りを行う予定とか。今後重点的に取り組みたいことはいわゆるグリーンツーリズム。春のイチゴ狩り、5月の竹の子掘り、7月はとうもろこし狩り、10月にはカニ取り、など半日地元で体験してもらうような取り組みに力を入れたいとのことでした。運営を支える組合員さんたちの楽しみはがんばって毎月積み立てをし、2年に一度海外旅行に行くこと。最初はハワイ、2度目はオーストラリア、そして今度は台湾に行くそうです。

IELからのメッセージ

いつ行っても豊富な品揃えを切らさないための陰の努力と常に進化を目指す姿勢を感じました。地産地消は、生産者から消費者へ商品が届くまでの流通によるムダなエネルギーを省いて、CO₂の排出削減に役立っていますし、旬産旬消も時期に採れるものを食べることで、生産に要する無駄なエネルギーを削減することができます。私たちが商品を選択する段階で、温暖化の防止に役立つ行動ができるのです。

家庭におけるCO₂削減のポイント

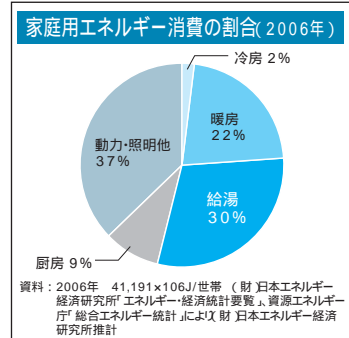
給湯にはエコキュート



家庭での省エネというと「電気」を思い浮かべますが、エネルギー消費が多いのは、給湯システムです。

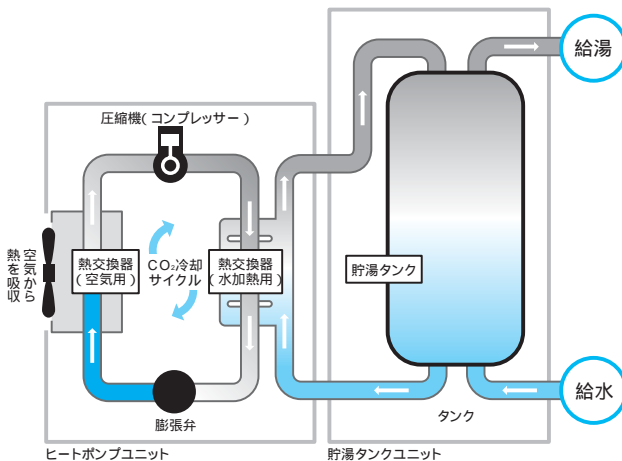
家庭におけるエネルギー消費の約3割を占める給湯システムを省エネ型にすれば、光熱費の削減とCO₂削減につながります。

ここでは電気と空気の熱を利用した給湯システムである「エコキュート」を紹介します。



1 原理は「ヒートポンプ式電気給湯器」

エアコンなどで利用されているヒートポンプ技術を応用したものです。これまでの火や電気を使って直接お湯を沸かすのではなく、電気力で空気を圧縮させ、その結果発生する熱でお湯を沸かすというもので、使用する電気の約3倍の熱エネルギーを作り出すことができます。



設備としては、通常、屋外にヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットを備え付け浴室や台所のリモコンで操作します。

2 メリットは？

いっさい火を使わないので安心です。お湯をつくる際に燃焼がないので、直接的にはCO₂を排出しません。また、気になる燃焼音や排ガスの臭いもありません。お湯をつくる量は、使用パターンを学習し、その家庭に合わせて調整するのでムダがないのです。

3 導入コスト・ランニングコストは？

約70～100万円です。フルオートタイプから給湯専用タイプ、またタンク容量(300～460L)によっても異なります。割安な深夜電力を利用すれば、電気料金は一戸建て4人家族の場合平均1,000円～1,300円/月ほどで済み経済的です。

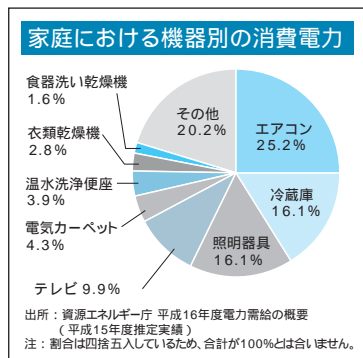
4 補助金は？

国では「エコキュート導入補助金制度」を設けています。1台につき41,000円(H21年度)で募集は5期に分けて実施されています。対象給湯機が指定されていること、設置前に申請し、受理の確認後に設置することなどの条件があります。



照明には電球型蛍光灯

家庭での電力消費の約16%を占めるのが照明器具です。省エネタイプの「電球型蛍光灯」を紹介しましょう。その名のとおり、白熱電球用ソケットに直接装着できる蛍光灯のことです。



省電力、長寿命

メリットは、消費電力が少ないということです。白熱球60Wと同量の明るさだと消費電力は12W、1/5の電力で済みます。また寿命が長く、だいたい6,000～13,000時間と白熱球の5～6倍となっています。

一方で、販売価格が高く、量販店でも国内メーカーの場合、1個およそ600円～800円かかります。また、点灯に時間がかかること、点灯直後や低温時には照度が低いこと、調光機能のついた器具には使用できないことなどがありますが、最近ではだいが改良されてきているようです。

S家の場合

昨年、白熱球14個をすべて電球型蛍光灯に切り替えました。結果、消費電力は680Wから136Wと1/5になりました。1日平均4時間使用した場合、平均794kwhの節電となりCO₂は309kg削減されました。1個780円で購入したのですが、おおよそ8ヶ月でペイできたこととなります。

館ヶ森アーク牧場 (株式会社アーク)

～ 自然と遊び、自然を味わう～

当社は、藤沢町で、ファームマーケットや、ハーブガーデン、レストランなどの観光施設や、鹿・鶏・豚・羊などの牧草地、有機野菜の圃場などの施設を備えた館ヶ森アーク牧場を運営しています。また、グループ内企業には、自家生産した豚肉の加工・販売を行う手づくり有 館ヶ森ハム工房、自社だけでなく地域の家畜排泄物から有機質堆肥を製造する有 若葉があり、これら2社とともに地域に根ざした循環型農業を確立させることで、持続可能で発展的な農業を推進することを目指しています。

責任ある生産者としての自覚

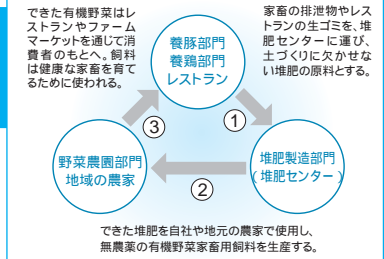
従来型の農業は主に生産に重きをおき、生産者と消費者のつながりがあまり感じられない農業であったように思います。農家では、市場出荷用と自家消費用の農産物を違う畑で分けて作るようなこともありました。

私たちは責任ある生産者として、消費者の方々に、 どういう所で、 どういう人達が、 どういう想いで、 どのようにして、 作られた農産物なのかを理解して買っていたきたいという考えのもと、また、自然や動物たちとふれあうことで癒され、楽しんでいただきたいとの想いから、館ヶ森アーク牧場を設立し、ファームマーケットを立ち上げました。

できる限り地元の食材を

日本では、牛や豚、鶏などに食べさせているエサのほとんどは海外からの輸入に頼っているのが現状です。当社では、昨年からの飼料米(エサ用のお米)の取り組みを地元の農家の方々と始めたり、自社の圃場で飼料作物を栽培したりと、地域農業の活性化と国産自給飼料の取り組みも推進しています。また、製造した有機質堆肥は地元の農家の方々に優先的に使っていただくとともに、農業に頼らない農業にも積極的に取り組んでいます。

アーク牧場の循環型農業



牧場内のレストランでは、基本的には、自社で生産された農産物を食材に使っていますが、それで賄いきれない場合は地元のもの、それでも賄えない時には国産の食材を提供しています。食とは本来、身体の成長を促したり心身を健康に保つ役割を果たしています。それは、食材やそれらを調理したものであっても、作る人が食べる人のことを思って、愛情をかけて初めてなされることだと思います。海外から安価で輸入される食材は、効率的に大量生産された農産物がほとんどで、国内で丹精込めて作った物とは違っていると思います。国内には、消費者の方々の「美味しい!!」の一言のために頑張っている生産者がたくさんいます。こうした生産者の食材で日本の食生活を支えることが出来るようになれば日本の農業は活性化化すると思うのです。

今後の取り組み

年内には、アーク牧場内に風力と太陽光発電装置を設置する予定としています。また現在もそうですが、生産農場内においても食品を製造する工程上の危険要因を分析し、効率のかつ連続的に管理して安全を確保するHACCP(ハサップ)を推進したり、食品添加物を使わないなど、より安全面を強化し、安心して美味しく召し上がっていただける商品を生産し続けます。

まだまだ少量ですが、国内自給飼料の取り組みは進めていこうと思っています。



押入れからはじめる エコロジー

～ 子ども服無料交換会を開催しました～

7月19日に一関文化センターで開催された『子ども服無料交換会』は、萩荘幼稚園の保護者の方々のご協力をいただき、午前中から多くの家族連れが訪れ、一時、会場に入れないうほど賑わいました。

交換会に先立ち、大町のPoint1や市役所本庁舎で回収BOXを設置したところ、およそ2,000点の品物が回収され、反響の大きさに驚きました。

当日は、さらにおよそ3,000点の品物が持ち込まれ、予想以上の出品数となり、また美品の多さに驚きました。子ども服のほか、靴やかばんなども人気があったようです。

最終的には、およそ5,000点の出品数に対し、汚れ等で出品前に廃棄した品物がおよそ200点、持ち帰っていただいた品物がおよそ3,300点となりました。

来場者からは、「次はいつするの」、「うちの地域や保育園でやりたいがどうすればいいか」などの問合せがあり、また残ったおよそ1,500点についても有効に使っていただきたいとの想いから、再び『子ども服無料交換会』を開催します。

協議会では、市内の各地域でこのような取り組みを行っていただきたいことから、地域や学校等での開催をお考えの方は、当日、ボランティアスタッフとして一緒に取り組んでみませんか。



速報!

子ども服無料交換会 を開催します!

- 【日時】平成21年9月26日(土)～27日(日)
午前10時～午後4時
- 【場所】一関市総合体育館(ユードーム)
- 【内容】当日、会場で不要なもの(以下の回収品に限る)を持ち込んでください。会場で必要なものを無料でたくさんもらってください。
- 【回収品】服、靴、帽子、バック、絵本(BABY・子ども用品限定)

Q & A

Q どんなものを出すの?

A 洗濯済みでまだ十分使えるものに限ります!

Q 出すものが何もありません

A もらうだけでも、出すだけでもOK!

Q 本当にタダなの?

A 本当に無料です。何枚でもお好きなだけお持ちください。(ただし、転売目的の方はお断り)

【問合せ】21-8342(事務局:一関市生活環境課)

てんぷら油で車が走る!

いちのせきeco(エコ)油田開発プロジェクト

～使用済みてんぷら油の回収にご協力を!～

市では、みなさんの家庭から出される使用済みてんぷら油の回収ステーションを昨年5月から設置し、現在は、市内全域の本庁・支所・公民館に設置しています。その結果、平成21年7月までにおよそ900リットルの油を回収することができました。市民のみなさんにはたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

回収された油から、バイオディーゼル燃料をつくり、一部、公用車の燃料として使用しています。

使用済みてんぷら油をリサイクルすることで、川の汚れを防ぎ、ごみを減らすなど環境面でも優れた取り組みですので、引き続き市民のみなさんのご協力をお願いします。

【使用済みてんぷら油の回収方法】

家庭で使用済みとなった食用油を、ペットボトルなどの容器に濾して入れ、回収場所に持参してください。

【使用済みてんぷら油回収ステーション】

- 一関地域 11箇所 本庁生活環境課、公民館(一関・山目・中里・狐禅寺・飯美・萩荘・舞川・弥栄)、新鮮館おおまち(大町)、レスパイトハウス・ハンズ(青葉町)
- 花泉地域 8箇所 花泉支所、公民館(永井・涌津・油島・花泉・老松・日形・金沢)
- 大東地域 7箇所 大東支所、公民館(大原・摺沢・興田・猿沢・浜民・曾慶)
- 千厩地域 5箇所 千厩支所、公民館(千厩・小梨・奥玉・磐清水)
- 東山地域 4箇所 東山支所、公民館(東山・田河津・松川)
- 室根地域 2箇所 室根支所、室根公民館
- 川崎地域 2箇所 川崎支所、川崎公民館

お母さん
エコだよ、
エコ!!



エコ友チャレンジ 奥玉小学校での取り組み

市では、子どもが家族と一緒に地球温暖化の仕組みを学びながら、家庭での節電や節水などの取り組みを進めるため、エコ友チャレンジテキストを作成し、本年度は、奥玉小学校と猿沢小学校の4年生の皆さんが取り組んでいます。

奥玉小学校では7月10日、岩手県地球温暖化防止活動推進員の薄井先生を講師に迎え、地球温暖化に関する出前授業が行われました。子どもたちは、昔の冬の生活や昔のごみについてあらかじめ家族で話し合い、その結果をメモに残しました。当日はそのメモを持ち寄り、児童にとって初めての経験となる「ワークショップ」を通じて、昔の生活を思い描き、現在との生活の違いを実感したようです。その後、温暖化の仕組みや原因、ごみを削減するにはどうしたらよいか、節水・節電するための具体的なとりくみなどについて授業を受け、理解を深めました。

皆さんが取り組んだ結果については、後日お知らせする予定です。

市では、引き続きチャレンジしていただける学校を募集しています。

お問合せ先 生活環境課(21-8342)

いちのせき環境フェスタ

- 日時 / 平成21年9月26日(土)～27日(日) 午前10時から午後4時
- 場所 / 一関市総合体育館(ユードーム)入口付近
- 内容 / ハイブリット車などエコカーの展示・試乗、セグウェイの試乗、新聞エコバッグ作り、リサイクル品の展示、フリーマーケットなど(予定)
- 主催 / NPO法人グリーンハート
- 問合せ / 090-8780-9018(高橋)

投稿欄

古布の再利用を

私たち無料交換の会は、去る7月19日に「子ども服無料交換会」を開催しました。たくさんのお品、ご来場、本当にありがとうございました。もし、行けばよかった・・・と思われた方は9月にも開催いたしますので、ぜひご参加くださいませ。

というのも、一関市では可燃ゴミの約40%が紙や布とのことで、不用品を出し、無料で貰う「無料交換会」は身近で手軽なエコロジーだと感じています。

では、交換会にも出せないような布製品はどうしたら良いのでしょうか。残念ながら一関市では古布回収は行われていません。ゴミに出すしかないのであれば、もう一度仕事をお願いするのはいかがでしょうか。手のひらや雑巾サイズにカットし、台所の油や皿の汚れ落とし、さらに洗剤拭きの雑巾として利用できます。

使用後はそのままゴミ箱へ。水や洗剤の節約になり、何より排水口から汚れや洗剤を流さずに済みます。

押入れを整理できるうえに、節約と環境への配慮もできる無料交換会。地球のことを考えなくても済むけれど、でも誰かが考えなくてはいけないこと。その誰かが一人でも増えると良いですね。

(無料交換の会 代表 阿部文子)

地球温暖化防止

「わたしの取り組み」 「川柳」募集中!

奥州いわてNPOネットでは皆さまからの応募をお待ちしています

「わたしの取り組み」...家庭・個人で行っているCO₂削減の工夫や取り組み、また、専門家に聞いてみたい温暖化防止に関する疑問・質問など

「川柳」...地球温暖化をテーマにしたもの

【応募方法】所定の応募用紙で応募してください。

(応募用紙は本庁生活環境課・各支所市民課にあります)

【募集期間】平成21年10月20日(火)まで
平成21年10月31日(土)まで

【問合せ】21-8342(生活環境課)

編集後記

10年前から家庭菜園をはじめ、今では5aの畑を耕しています。小さい頃母の畑仕事を手伝っていましたが、化学肥料などを使った覚えがなく、生ゴミとわらや草で作った堆肥、鶏糞、人の糞尿、草木灰を使っていた記憶があります。母は他界し、野菜作りの極意は伝わらず終わってしまいました。でも何とか環境にやさしい畑作りにと、多少、化学肥料は使用していますが、5頭の犬と30羽のニワトリが出す糞でわらや草を発酵させて作った自家製堆肥、そしてEM発酵を利用した生ゴミ堆肥と米ぬかのボカシを主に肥料として使っています。

結果、健康優良児とはいえない野菜ですが、甘くてやわらかいのです。動機は家計費節約でしたが、ゴミ減量化とCO₂削減に貢献と思えば、何となく胸を張りたい思えるようになります。

(佐々木幸子)